

花川病院

症 例 概 要 患者：50歳代 男性

病名：右被殻出血

入院期間：2025年2月～7月

【発症から入院まで】

2024年12月自宅で発症。左片麻痺出現し救急搬送。高血圧性右被殻出血と診断された。MassEffectも強くなく保存加療。2025年2月当院回復期リハ病棟へ転院。

既往歴：高血圧、高度肥満症

家族構成：実母と2人暮らし 20代頃に結婚し、娘がいるが、離婚し現在疎遠。

職業：酪農、畑作に従事。離婚後は農業から離れ、倉庫作業員として勤務。しかし人間関係で長くは続かず。再度農業の仕事に従事を試みたが、肺炎を発症し長期的に職場を離れ、復職しづらくなり離職。その後は定職に就かずに1年以上自宅で引きこもり母と暮らしていた。

趣味：動画鑑賞 友人と会食 料理

内 容

- 1.脳梗塞発症により入院となったA氏は、発症前から就労継続が困難で転職を繰り返し、離婚後は実家で生活し引きこもりとなっていた。対人関係や社会交流にも困難さがあり、知的機能の特性や社会適応面の課題が背景にあった。身体機能回復に加え、退院後の生活基盤や社会参加の再構築が課題であった。
- 2.入院時は左中等度片麻痺、注意障害を認め、ADLは中等度介助を要した。言語コミュニケーションは良好であったが、注意障害に伴う記憶力低下を認め、生活再建や社会参加への支援が必要な状態であった。
- 3.A氏は身体回復や再発への不安を強く抱えていた。チームでは歩行・ADL自立、再発予防を目標に設定し、多職種支援を開始した。医師による病状説明や再発予防指導、看護師・栄養士等による健康管理と精神面支援、PT・OTによるWelwalkを使用した歩行訓練・ADL訓練、薬剤師やMSWによる服薬・社会資源支援を行い、多職種で連携して取り組んだ結果、歩行・ADL自立レベル獲得となった。
- 4.リハビリが進む中で、「実家を出たい」「自分に合う仕事を知りたい」「農業や調理を活かしたい」との

希望が聞かれ、母親も自立を望んでいた。多職種カンファレンスでA氏・ご家族の希望を共有し、新たな生活場所の検討と就労支援を行うこととなった。

5.「生活の自立と就労」を目標に、退院後の生活と社会参加を見据えた多職種支援を継続した。

医師は本人と家族へ病状説明・予後説明。CTやMRIによる残存血腫・脳浮腫の確認と投薬治療。

PTは床上動作・屋外歩行訓練・階段昇降・Welwalk訓練。

OTは個浴訓練・調理訓練・畑動作訓練・就業生活支援者との相談役

STは注意・記憶訓練、就労を見据えたコミュニケーション訓練

Nrsは再発予防指導・精神面サポート・退院先支援者への情報提供

栄養士は減量に対する栄養管理と退院時の栄養指導

MSWは住居・就労先等を相談する支援者へ情報提供

CWは自主訓練の支援・コミュニケーションの支援。

DHは口腔ケアを指導。・就業支援センター

薬剤師は服薬指導を本人・家族へ。・就労支援A・B型事業所

6.退院に向けて住居支援を進め、A施設への入居が決定した。また、就業支援センターと連携し就労継続支援A型事業所を見学し、本人の希望に沿った農作業や調理関連業務につながった。退院後は、生駒理事長の外来診察と外来リハビリも継続し、社会生活での相談等フォローアップできる体制等を作り、生活範囲が拡大し就労も継続できている。本症例は、多職種が本人・家族の希望を共有し、住居・社会資源・就労支援を含めた介入により、地域生活と社会参加を支援した症例であった。

入院時FIM 運動項目：52点、認知項目：29点 計81/126点

退院時FIM 運動項目：88点、認知項目：35点 計123/126点